平成２９年度　東大和市地域自立支援協議会
防災・防犯　部会　活動報告

１、平成２９年度の活動テーマ

（自立支援協議会の大テーマ「障害者の地域での共生生活を実現するために」を踏まえた小テーマ）

前年度に引き続き、障害のある人が、地域で安全・安心な生活を送ることができるように、①ヘルプカードの進行管理、周知普及、活用方法の検討、②防災・防犯の視点から障害者を地域で支えるしくみづくりの検討を中心として活動する。特に②については昨年度に福祉避難所等の概要を知る活動を行ったのでそれを踏まえて実践的な取組みを行う。

２、活動実績

回目	日時	活動場所	内容	備考
1	6 月 20 日（火） 13:30～15:00	中央公民館	委員紹介、部会長・副部会長選出 東大和市災害ボランティアセンター運営協議会委員の選出、29 年度活動計画 ヘルプカードの配布状況・普及について	
2	９月２８日(木) 13:30～15:30	市立第一中学校 及び市役所会議棟	学校避難所見学会 学校避難所（備蓄庫、マンホールトイレ等）の見学 振り返り	
3	１１月２０日(月) 13:30～15:30	は～とふる	二次避難所の説明、見学及び振り返り ヘルプカードの配布状況・普及について 防犯講習会（警察署との懇談）について	
4	2 月１９日（月） 13:30～15:00	は～とふる	防犯講習会（警察署との懇談会・交流会） 障害のある方の駐在所・交番訪問の感想発表、警察署の方からのお話、当事者グループからの意見、懇談等	
5	3 月 19 日（月） 13:30～15:00	市役所会議棟 第２会議室	防犯講習会の振り返り 29 年度の振り返り、30 年度の取組み ヘルプカードの配布状況・普及について	

※上記のほか、ヘルプカード講習会、ヘルプカード強化月間（12 月）、いろは歌に係る活動を行う。

３、活動の成果

（自立支援協議会の大テーマ「障害者の地域での共生生活を実現するために」に向けて）

平成２８年度から引き続き、防災・防犯の視点から障害者を地域で支えるしくみづくりの検討にあたって、見学会等を通して実際的な学習を行った。

備蓄庫やマンホールトイレの見学からは、災害の備えに関して障害のある方への配慮は一定程度あるものの「自助」の大切さを学んだ。二次避難所の説明・見学においては、協定は締結されているものの運用を具体化する必要があることなどが課題と感じられた。

２回の説明・見学会には、部会員以外に障害者相談員、民生委員、障害者の親等の参加もあり、部会員以外の方にも知っていただくことができた。

毎年度実施している警察署の方との懇談会においては、『制服姿の警察官の方との交流』が重要だということを踏まえ、今年度は作業所単位で当事者が交番・駐在所を訪問する取り組みを行なった上で懇談会を実施した。障害のある人にとって警察官は頼りになる存在であることや、地域に勤務している警察官の方にも障害のことをよく知ってもらえる機会となり、「地域での共生生活の実現」という自立支援協議会の大テーマにつながる懇談会になった。

その他、ヘルプカードの登録については微増という状況が続いており、障害のある方に対しては一定程度配布できていると思われ、周知の取り組みとしては、ヘルプカード講習会を中央公民館事業のボランティアの東大和高校生徒およそ 100 人や、文化祭・福祉祭の来場者に対して行なった。また、昨年度完成した東大和市障害者災害時支援いろは歌については、３月１１日（日）に開催した防災フェスタにおいてパネル掲示等を行い、周知を図った。内容としては、委員が来場者の子どもとかるたをしたり、活動ブースにおいてパネル掲示及びいろは歌資料の配布を行った。

４、活動の反省点・次期への取り組み課題

昨年度に受けた災害時要配慮者等の説明を踏まえ、実際に福祉避難所を見学するなどの体験的な取り組みを行なったが、委員構成の変更等もあり、「防災・防犯の視点から障害者を地域で支えるしくみづくりを検討する」という目的達成には至らなかった。ただし、部会や見学会の振り返りの際には、それぞれの委員の所属する組織等を踏まえて、活発な意見交換等がなされたことは有意義であった。

次期においては、平成２８年度・２９年度の取り組みから出された課題を整理し、それを解消するための手立て等について検討を進めたい。

ヘルプカードについては、実際に障害のある人が困った時などに助けてもらえるように一般市民への周知を一層強化する取り組みが必要であるため、より有効的な周知について部会としても検討したい。

警察署との懇談会については、事前の駐在所・交番訪問によって当事者が参加することができた。今後も形を工夫して継続させていきたい。

東大和市障害者災害時支援いろは歌は、小中学校でカルタの作成をしていただけるよう提案し、作成後は授業や学童で親しみを持って利用できる物となるように進めたい。